

異文化理解から始まる 国際人としてのマナー

08 日本の常識で行動しないこと。

渡航時の心構え

夏休みなどを利用した海外旅行や、留学制度もしくは自費による短期・長期留学が一般的になった現代の大学生。若い頃に見聞を広めるのは好ましいことですが、世界を旅して回る際に知っておきたいのがマナーや常識のグローバルスタンダードです。知識不足や文化の違いなどから失敗やトラブルが生じて、国内にいるような対応はなかなかできません。また、安全面でも十分な注意が必要です。「その国の文化・生活習慣をしっかりと理解する」「日本人として見られていることを忘れずに」「トラブルが起きる前に防ぐ」。これらの心構えを徹底させた上で、海外に送り出しましょう。

海外での注意点とマナー

- ① ホテルでは現金、トラベラーズチェックなどの貴重品をセーフティボックスに預けた方がよい。また、カメラやパソコンなどは放置せず、スーツケースにも必ずロックを。
- ② 食事のマナーには十分気を配る。音を立てない、タバコを吸わないなどは常識。また、食事は留学時にもトラブルを招きやすい。基本的に外国の家庭の食事は日本に比べて質素なため、「量が足りない」「食べられるものがない」などの不満が出る。好き嫌いや適量などは事前に伝えておくこと。また、家族の食事の時間に遅れないなどの配慮も大切。
- ③ 観光の際は大声で話したり、はしゃぎすぎたりしないように気をつける。教会、美術館、博物館などは適切な服装で訪ね、入場・写真撮影の可否、礼拝者、順番

の厳守などに十分気を配ること。モノを食べながらの観光も厳禁。

- ④買い物はその店の格・クラス・店構えに合った服装で出かける。これはホテル、レストランなども同じ。コンサートなどに出かける際は、多少ドレスアップする。
- ⑤留学時にはホストファミリーの生活形態をよく理解する。迎え入れる家庭はじつに多様で、「行ってみたら一人で留守番ばかり」といった場合もある。お互いを尊重しつつコミュニケーションをとるよう心がけ、問題をほったらかしにしないこと。

◆ 偽ブランドと商標権に気をつけよう

column

最近ではネット通販、露天などで驚くような安値のブランド品が販売されていますが、それらは偽物とみてまず間違いありません。ブランド品のロゴマークには商標権がありますので、偽物の製造・販売は完全な違法行為です。買うこと自体は違法ではありませんが、犯罪組織の資金源になることもありますので、モラルとして控えるべきです。なお、海外旅行で買ったお土産が偽物だった場合は関税定率法に違反し、税関で没収されます。

被害者にならないためには、信頼できるお店を選んで買い、ブランド品が本来もっている品質の特性を見きわめる目をもつことです。長い歴史や優れた性能・デザインを有してこそそのブランド品なわけですから、どこかしっくりこない商品は買うべきではありません。また、ブランドだけにこだわらず、自分の生活やファッションにマッチした商品を選ぶ感性をもつことも大切です。